

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	消防施設整備事業			事業コード	0030
所属コード	017100	課等名	消防対策室	係名	
課長名	上平 久浩	担当者名	藤原 智之	内線番号	698-2524
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	安全な暮らし	コード	2
	施策	火災に強い消防体制の構築	コード	2
	基本事業	消防力の強化	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 9 款 1 項 4 目 消防施設整備事業（001-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度			開始年度 不明
根拠法令等 (H26)	消防組織法			

(2) 事務事業の概要

地域防災の充実のため、消防施設の整備や消防ポンプ自動車等の整備を実施する。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

消防屯所の老朽化とともに防災研修施設の必要性が高まったため、昭和 50 年代から順次地区コミュニティ消防センターの建設を行っている。また、消防ポンプ自動車等の経年劣化に伴う消防体制の後退を防ぐため、更新配備を開始した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

東日本大震災や、大規模な山林火災の発生により、消防行政への要望、期待が強くなっており、今後さらなる消防体制の整備が必要である。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・

(1) 対象（誰が、何が対象か）

消防関係車両

消防無線機器

地区コミュニティ消防センター

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A 消防団のポンプ自動車, 小型動力ポンプ付積載車 保有台数	台	76	76	76	76	76
B 消防無線電話の保有数	基	58	58	58	58	58
C 設置すべき地区コミュニティ消防センター・屯所数	館	1	1	0	1	1

(3) 26 年度に実施した主な活動・手順

① 消防ポンプ自動車の更新

消防団に配備している消防ポンプ自動車のうち, 更新時期を経過しているものを購入した。
(ポンプ車 1 台, 小型動力ポンプ付積載車 1 台)

② コミュニティ消防センター等の整備

消防団の拠点施設として, 外山消防屯所の建設を行うとともに, 町村消防屯所の建設に係る
地質調査及び設計を行った。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 消防団の消防ポンプ自動車, 小型動力ポンプ付積 載車および活動車の新規・更新台数	台	4	3	6	2	2
B 消防無線電話の更新数	基	0	0	0	0	0
C 地区コミュニティ消防センター・屯所の建設数	館	1	1	0	1	1

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

消防施設を整備することにより, 災害に対する住民の安全を確保する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 地区コミュニティ消防センターの利用 者数	■上げる □下げる □維持	人	23,730	23,800	21,648	22,000	24,388
B 耐用年数内の無線機器の比率＝耐用 年数内の機器数÷保有全機器数	□上げる □下げる ■維持	%	100	100	100	100	100
C 耐用年数内の消防車両の比率＝耐用 年数内の車両数÷保有全車両数	■上げる □下げる □維持	%	72.37	72.37	73.68	75.00	75.00

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 計画	26 年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	41,440	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	39,700	70,400	27,300	41,300	41,300
	④一般財源	千円	19,654	18,714	9,867	5,315	5,519
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	59,354	89,114	78,607	46,615	46,819
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	300	300	300	300	300
	B 職員人件費 ⑥× 4,000 円	千円	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
計	トータルコスト A+B	千円	60,554	90314	79,807	48,115	48,319
備考 国費は、地域の元氣臨時交付金である。							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

事業の適正かつ迅速な実施が、災害発生時の初期対応に大きく役立つため、整合性が図られている。

② 市の関与の妥当性

市民の生命・身体・財産を火災から守るのは、行政の責務である。

③ 対象の妥当性

市民との生命・身体・財産を火災や災害から守るために必要な消防施設や消防車両等であることから、対象として妥当である。

④ 廃止・休止の影響

消防団の活動に支障をきたすとともに、消防団が十分に機能なくなり、市民の安全が脅かされる。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

消防施設や消防車両並びに消防機器の充実により、よりよい防災体制を築くことができる。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

市民を含め全ての市内滞在者の安全確保につながるものであるから公平である。

(4) 効率性評価

最低限の予算で実施しており、これ以上の削減はできない。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	安全・安心な暮らしの確保	コード	8
	小施策（推進項目）	消防・救急の充実	コード	8-3

（2）改革改善の方向性

計画的な消防車両等の配備を行うことにより、地域防災力の向上を図る。

（3）改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

計画的な消防車両等の更新が必要であるが、予算的な制約があり更新までの年数が伸びている。消防車両等の老朽化や故障などによる地域防災力の低下を避けるとともに、市民の生命および財産を守るため、予算の重点配分施策に位置づけられるよう引き続き訴えていく必要がある。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

（2）全体総括・今後の改革改善の内容

消防車両や消防施設等は購入又は建設からかなりの年数を経過しているものが多く、老朽化や経年劣化等に伴う消防体制の後退を防ぐため順次更新を進める必要があることから、総合計画に位置づけ計画的に整備を行うこととする。